



チセヌプリスキー場 公募について

2016・4・22



チセヌプリスキー場の運営方針(案)

2016・4・22

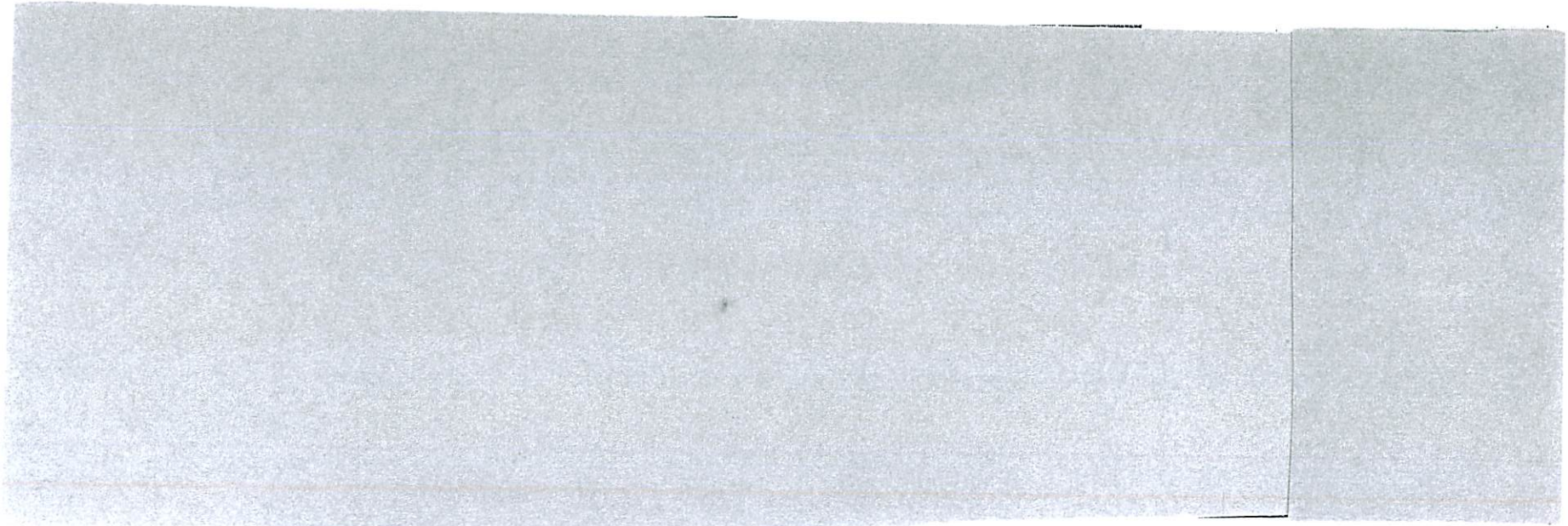
申請者:



スキー場の運営方法は基本的に「キャット」で行う

リフトは休止のまま様子を見る。キャット運行
(実験?)を基本として運営する予定

社会教育(バックカントリーガイド育成など)、
スキー文化伝承等を実践を行う場として活用



運営主体となる組織



ニセコエリアのクラブ・フィールド「チセヌプリ」

ニュージーランドには、株式会社が大きな開発をして収益を上げるスキーリゾートの他に、地域の人々に支えられて運営しているスキー場「クラブ・フィールド」があります。

クラブ・フィールドでは、小さなTバーリフトが地域の皆さんの支えで運営され、子供達の遊び場や皆さんの社交場として愛されています。

チセヌプリは「ニセコエリア」に残された、最後の「フィールド」と我々は考えております。「外資による収益性最優先」の開発と、それに応えるようなスキー場運営ではなく、地域に愛されるニセコ版の「クラブ・フィールド」を目指したいのです。

バックカントリーへのGate Wayとして、またニセコエリアでガイドやインストラクターなどを行っている地域の人々の生業の場として、存在意義を確立していきたいと考えています。



将来的な事業について

1. 事業が安定する3年目頃より、「ガイド制度・育成などの社会教育の場」や「社会教育事業（自然環境保護や人材育成など）」としての活用を行っていく予定。具体的には「ガイド及びバックカントリー愛好家向けの雪崩安全講習、自然環境保護意識を啓蒙するイベント、ツアー終了後の清掃活動、近隣小中学校に向けた教育研修ツアーなどを想定
2. 本事業の関係者はいずれもウィンタースポーツ業界に独自のネットワークを有し、各種企業からの協賛や連携した事業・イベント、メディア告知は十分に行い得る。そのため、チセヌプリでの事業開始後は、それらを有効活用して地域ブランドの向上に努めたいと考えている
3. 夏場対策については、採算性等の観点からこれからの検討となるが、各種トレッキング、トレイルランニング、マウンテンバイク、アートフェス。また休憩所の使用用途、改装を含めた事業展開について、何らかの可能性は追求したいと考えている。